

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)、18日(金)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	133人	社会	133人	数学	133人
	理科	133人	英語	134人		

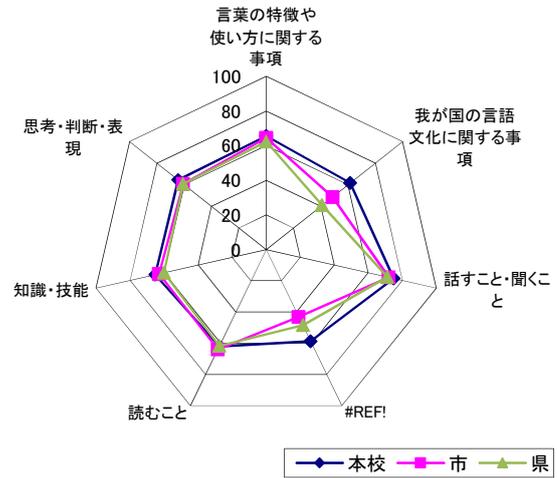
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.6	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	61.7	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	75.0	72.1	71.2
	#REF!	58.8	43.1	48.5
	読むこと	62.0	63.9	61.8
観点	知識・技能	65.2	62.9	60.1
	思考・判断・表現	64.5	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

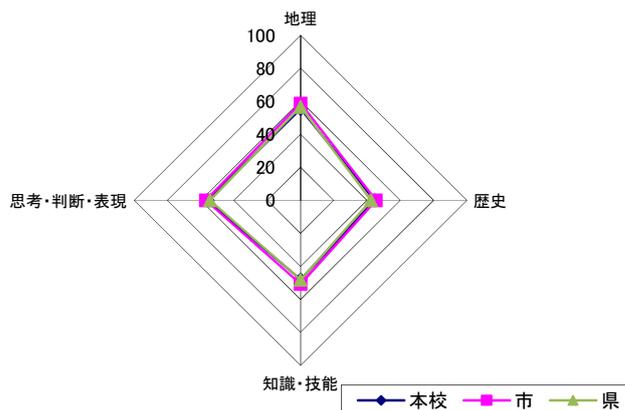
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>【全9問】本校の平均正答率は65.6%で、市平均より+1.1ポイント、県平均より+3.3ポイントだった。</p> <p>○漢字の読み(3問とも中学の字)、敬語(1問、小5)、文節(1問、主述の関係)の問題は市・県平均を上回った。</p> <p>●漢字の書き(2/3問、小6)では市平均を1ポイントほど下回り、短歌で使われている表現技法(倒置法)を問う問題では市・県平均より-8ポイント以上、下回った。</p>	<p>全体的に平均を上回っている(R6は、市平均より-3.7ポイント)。このことから、昨年度からの取組で効果的であると思われる以下のものは継続して実施していきたい。また、平均を下回った問題は、関連する単元の際に重点的に取り上げたり、とちぎっ子の受検前に繰り返し問題に取り組ませたりしたい。</p> <p>①小学校の内容の想起(特に小学5・6年生)。中学で習う事項が小学校での既習事項が土台となっていることを定期的に説明する。</p> <p>②ほぼ毎時間の漢字の書き取り。冒頭の3分ほどで10問の書き取りを行っている。事前に解答は配付しており、見直しを持ちながら自主的に対策する生徒が増えてきた。書き取りの力はもちろん、語彙力向上のために実施していきたい。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>【全1問】本校の平均正答率は61.7%で、市平均より+13.0ポイント、県平均より+20.6ポイントだった。</p> <p>○歴史的仮名遣い(いはく)を現代仮名遣い(「いはく」→「いわく」)に直す問題では、市・県平均を10ポイント以上上回った。</p>	<p>平均を大きく上回っている(R6は、市平均より-5.6ポイント)。昨年度実施して効果的であると思われる以下のものは毎年、古典の単元の際に取り入れたい。</p> <p>①いろは歌の読み(暗唱)と書きの小テスト。事前に解答と練習問題を配付して自主学習できるようにし、繰り返しテストをする。</p> <p>②頻出の問題をピックアップして事前に解かせる。</p> <p>③古典を学習している期間中は、簡単な問題をクイズ形式にして数問解かせることで、知識の定着を図る。</p> <p>④購入した資料集を活用して、古典作品への理解を深める。</p>
話すこと・聞くこと	<p>【全4問】本校の平均正答率は75.0%で、市平均より+2.9ポイント、県平均より+3.8ポイントだった。</p> <p>○話し手の話し方や話の内容の選択問題、話合いのまとめについての記述問題の計3問が、市・県平均より2~6ポイントほど高かった。特に話の内容を問う問題は、正答率96.2%ととても高かった。</p> <p>●司会者の話合いの進め方の工夫を問う問題では、市・県平均より6ポイントほど下回った。</p>	<p>平均をやや上回っている(R6は、市平均より-2.8ポイント)。</p> <p>①事前に重要なポイント(特に司会の進め方の工夫など)を板書により可視化してから話合いをさせることで、話合いのためのスキルが明確に分かるようにする。</p> <p>②メモの取り方のコツを全体で共有してから、類似問題を解かせる。</p> <p>③定期的に聞き取り問題を解かせる。</p>
書くこと	<p>【全4問で1つの作文】本校の平均正答率は58.8%で、市平均より+15.7ポイント、県平均より+10.3ポイントだった。</p> <p>○全4問とも市・県平均より5~22ポイント上回った。設問の内容は、資料であるグラフから読み取ったことを1段落目に、それに対する自分の考えを2段落目に、全体で8~10行の分量で作文するものである。特に本校の無解答率は4.5%で、市平均より18.1、県平均より14.6ポイントも低かった。</p>	<p>平均を大きく上回っている(R6は、市平均より-11.3ポイント)。例年、本校では条件作文が市や県より大きく下回る結果になっているので、まずは書くことの抵抗感やハードルを下げるために以下のことをスモールステップと反復をテーマに実施した。これからもできるものから継続して実施して書く力を伸ばしていきたい。</p> <p>①視覚支援として、毎回、マス目入りのミニ黒板を提示する。</p> <p>②最初は、教師の手本を一マス一マス行ずつ視写させる。</p> <p>③作文の「型」(序論・本論・結論、一つ目は、二つ目は、以上の理由でなど)に沿って書かせる。</p> <p>④徐々に生徒が考えて書く分量を増やしていく。</p> <p>⑤5回以上、類似問題(ポスターの選択、グラフの読み取り等)を解かせ、提出された作文は毎回添削して、3段階の評価を示す。</p> <p>⑥上手に書けている作品を全体で紹介して称賛したり、生徒同士で読み合ったりする場面を毎時間設けることで、意欲を高める。</p>
読むこと	<p>【全8問】本校の平均正答率は62.0%で、市平均より-1.9ポイントだったが、県平均より+0.2ポイントだった。</p> <p>○市・県平均より高かったのは2問のみで、文章を踏まえた募集ちらしの書き方、登場人物の考え方を問う問題で2ポイントほど上回った。</p> <p>●6問が2~4ポイントほど市・県平均を下回っていた。特に、接続詞の穴埋め、要旨についての書き抜きで正答率が4ポイントほど低かった。</p> <p>○【全5領域 全26問】</p> <p>評価の観点から見ると知識・技能(10問)は65.2%、思考・判断・表現(16問)は64.5%であった。市平均より+2.3ポイント、+3.7ポイントだった。昨年度は市平均より-4.2ポイント、-6.0ポイントだったので、今年度の上昇は大きいと考える。</p>	<p>市・県の平均との差はあまり開いてはなかったが、3/4もの問題数が平均を下回った(R6は、市平均より-5.0ポイント)。ただ、昨年度よりも市の平均に近づく値が見られたので、改善傾向と考えられる。今後は、昨年度実施した視覚支援をテーマにした以下の取組や読解のこつを明示した説明に力を入れたい。</p> <p>①教師の板書と生徒のワークシートの構造が同じになるようにする。分かりやすい板書をする一方で、ノートを取る抵抗感を取り除き、基礎的な知識理解が保障できるようにする。</p> <p>②説明文・随筆の内容を図表化する。構成(段落ごとの要点や役割)を視覚的に捉えさせたり、押さえておきたいキーワードを予め穴埋めの形式にしたりしてノートを簡略化する。</p> <p>③小説の内容を心情曲線で示す。構成や場面の展開を簡単に押さえた後は、登場人物の心情の変化を目立つ線(色、太さ)で示す。また、長文問題全体では、必ず本文を根拠にして意見を述べることを繰り返し掛けをすることで、正確な読み取りを促す。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.4	58.7	56.6
	歴史	44.6	45.4	42.4
観点	知識・技能	48.0	50.7	48.2
	思考・判断・表現	55.8	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

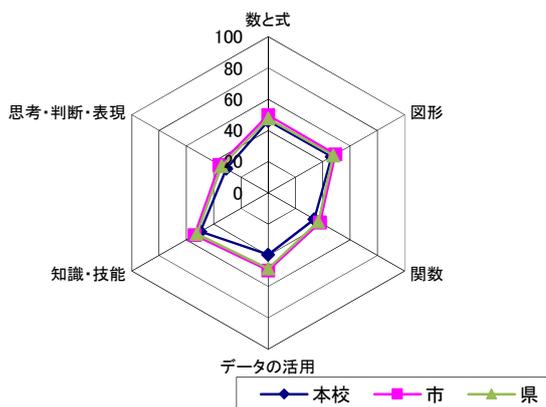
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は55.4ポイントで、市平均を3.3ポイント、県平均を1.2ポイント下回った。</p> <p>○大問2(帝国「人々の生活と環境」)では4問中3問県平均を上回り、うち2問は市平均も上回った。また資料から読み取れる原油の国際価格の変化について記述する問いでは県・市平均を2～3ポイント上回ることができた。</p> <p>●大問1(帝国「世界の姿」)では、5問中4問で市・県平均ともに下回った。また「オーストラリアの社会的な変化についてまとめた文章に関わりがないグラフを選ぶ」問いは、市・県平均を5ポイント近く下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元によって正答率の差が大きく、特に大陸や海洋の名前など基本的な知識が不足しているため、授業の導入やまとめの際に重要な語句について復習する。 ・グラフを読み取ることは比較的出来ているので、継続して授業で様々なグラフを取り扱うようにする。 ・文章を正しく理解し、求められている内容を精査することができていなかった。様々な条件や資料を提示し、長文を正しく読むことができるような発問を用意する。
歴史	<p>平均正答率は44.6ポイントで、市平均を0.8ポイント下回ったが、県平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○大問6中世に関する問いでは、4問中3問で県・市平均を上回ることができた。また「複数の資料から読み取れる内容を基に、偽籍が行われた理由を考えて記述する」問いについては、市・県平均を15ポイント前後上回る結果となった。</p> <p>●カードを年代順に並べる問いの正答率が低く、市や県の平均も下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや単元テストで問うた内容に関しては定着率が良かったので、普段の授業から小テスト形式で復習を行い、知識の定着を図る。 ・歴史的な事象を年代順に並べることが難しく、歴史的な流れが理解できていないことが見受けられる。単語の暗記に留まらず、なぜその歴史的な事象が起こったのかまで理解させ、歴史の流れについて考えさせられる発問を行う。また単元末の振り返りで、小單元ごとの流れについて確認させる。 ・市や県の平均が50ポイントを下回るような難易度の高い問いは軒並み市・県平均を下回った。難易度が高かったり、経験したことのない問われ方をされた際の対応力をつけさせるため、過去問など様々な問題に触れる機会を捻出する。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	46.0	49.7	47.6
	図形	46.5	49.2	47.7
	関数	33.8	38.0	36.8
	データの活用	39.5	49.6	48.5
観点	知識・技能	49.7	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.8	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

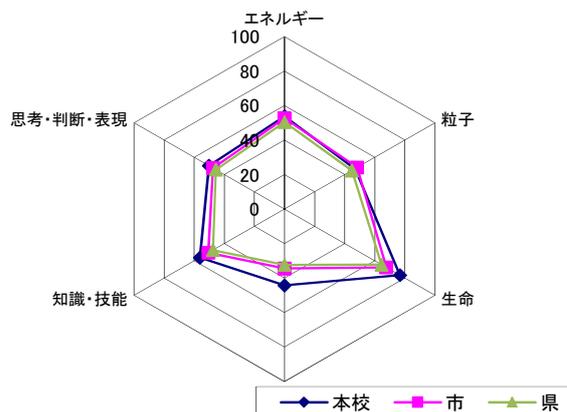
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>本校の平均正答率46.0%は市平均より3.7ポイント、県平均より1.6ポイント下回った。</p> <p>○正負の数の計算、1次方程式の基本的な計算問題は市・県平均を上回った。</p> <p>●式が表していることを求めたり、数量の関係を式を使って表したりする問題の正答率が市・県平均よりも低かった。</p>	<p>・正負の数の四則計算は、今後のすべての学習の中で土台となるものであり、確実に定着させたい内容である。授業開始時に基礎的な計算問題の練習に取り組みさせることで、基礎定着を図る。</p>
図形	<p>本校の平均正答率46.5%は市平均より2.7ポイント、県平均より1.2ポイント下回った。</p> <p>○角の二等分線の性質を理解しているか問う問題、おうぎ形と円の面積に関する問題について、市・県平均を上回っている。</p> <p>●平行移動・回転移動に関する問題で正答率が低かった。</p>	<p>・平面図形・空間図形の単元では、新たな用語が多く定義されるため、意味や用法を丁寧に指導していく。また、2年次では図形の性質の証明に入っていくが、間があいてしまうため、復習の時間を適宜取るようにする。</p> <p>・ICTの活用はもちろん、特に立体などは実際に模型を使って触ってみる活動を取り入れることでより深い理解を目指す。</p>
関数	<p>本校の平均正答率33.8%は市平均より4.2ポイント、県平均より3.0ポイント下回った。</p> <p>○全6問の正答率は、市・県平均を下回っているが、無解答率は全6問のうち5問が市・県平均よりも低かった。</p> <p>●正答率の高めな比例の式からyの値を求める問題で、正答率は60.2%であるが、市平均を7.6ポイント、県平均を6.4ポイント下回っている。</p>	<p>・関数の単元では、単純に計算する能力と同時に、会話文などの文章から、正しく情報を読み取る能力が必要になる問題が多かった。授業のなかで、文章を読み取りが必要な問題を扱い、考えさせる授業展開をつくり指導していく。</p> <p>・2年次で1次関数、3年次で2乗に比例する関数を学ぶことをふまえ、体系的な学習ができるよう比例・反比例との関連を意識しながら学習を進めていくよう指導する。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率39.5%は市平均より10.1ポイント、県平均より9.0ポイント下回った。</p> <p>○度数分布表からある階級までの累積度数を求める問題は県平均を上回った。</p> <p>●度数分布表からある階級の相対度数を求める問題について、市・県平均を大きく下回った。</p>	<p>・データの活用の単元は、1年次の年度末に学習するため、学習内容を定着させるため復習する時間が十分に取れていない。時間にゆとりをもち授業を進め、復習の時間を確保する。</p> <p>・相対度数に苦手意識を持っている生徒が多いが、小学校で学習した割合がよく理解できていない生徒も少なくない。既習内容の復習と、割合というものの形式的でない理解ができるよう指導していく。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.8	52.7	50.5
	粒子	46.9	48.3	44.9
	生命	76.7	67.6	64.4
	地球	44.2	34.4	32.3
観点	知識・技能	56.2	50.7	47.6
	思考・判断・表現	50.3	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

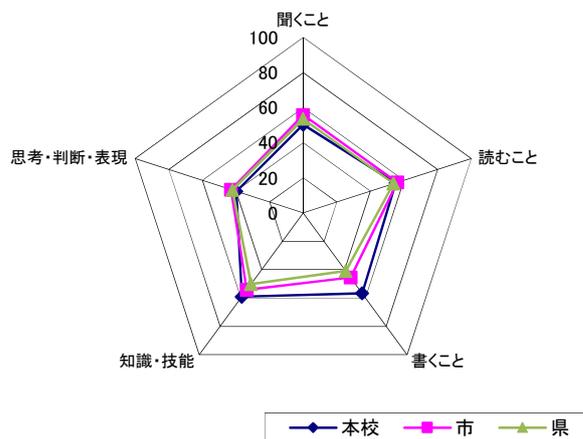
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>本校の平均正答率53.8%は市平均より1.1ポイント、県平均より3.3ポイント上回った。</p> <p>○7問のうち6問の正答率が市・県平均を上回っている。特に誤差を正しく扱ってグラフ化できるかを問う問題では、市・県平均を大きく上回った。</p> <p>●ばねの先におもりを付けた時の重力とつり合っている重力についてを理解しているかを問う問題で市平均より7.4ポイント、県平均より7.2ポイント下回った。</p>	<p>・光、音、力といった目に見えにくい概念を理解するために、実験を中心とした授業展開を行い、起きた現象を図やグラフを使って可視化していく活動を今後も取り入れていく。</p> <p>・音の波形をタブレットのアプリを使い、可視化することで生徒が音の大小や高低の特徴を主体的に調べることができたので、生徒が主体的に活動できる授業展開や準備を今後も行っていく。</p>
粒子	<p>本校の平均正答率46.9%は市平均より1.4ポイント下回り、県平均より2.0ポイント上回った。</p> <p>○多くの問題で正答率が市・県平均を上回っている。</p> <p>●メスシリンダーの使い方の技能が身につけているかを問う問題では、正答率が27.8%で市平均より30.3ポイント、県平均より23.9ポイント下回った。</p>	<p>・メスシリンダーを使う機会が少なく、技能が定着していなかった。読むべき液面の位置は理解できていたので、読むべきメモリの最小単位についても生徒に指導を行っていく。</p> <p>・今後も実験を通してわかったことや自分の考察を言葉で表現する活動を通して、実験の目的を明確にし知識の定着を図り、思考力や記述力も伸ばしていく。</p>
生命	<p>本校の平均正答率76.7%は市平均より9.1ポイント、県平均より12.3ポイント上回った。</p> <p>○6問のうちすべての問題において正答率が市・県平均を上回っている。正答率が市・県平均を10ポイント以上、上回っている問題も複数あった。</p>	<p>・4月に学習した内容であるため、カフトなどのアプリを用いてクイズ形式で復習を定期的に行ったことが、知識の定着につながったと考えられるので今後も続けていく。</p> <p>・実際の植物や動物を身に付けた知識を活用して、分類する活動などを通して、今後も生物の共通点や差異点に着目させ、知識のさらなる定着や応用力を図る。</p>
地球	<p>本校の平均正答率44.2%は市平均より9.8ポイント、県平均より11.9ポイント上回った。</p> <p>○多くの問題で正答率が市・県平均を上回っている。正答率が市・県平均を20ポイント以上、上回っている問題も複数あった。</p> <p>●緊急地震速報と地震のゆれの伝わり方を結び付けて考える問題では正答率が11.3%で市平均より2.1ポイント、県平均より1.7ポイント下回った。</p>	<p>・授業の中で実物の岩石、鉱物や化石などを観察したことでその特徴や種類についての理解が深まり、知識の定着につながったと考えられる。今後も可能な限り実物を観察する活動を続けていく。</p> <p>・震源からの距離を求める問題のように、問題文から必要な情報を見つけて、計算して答えを求める問題を苦手とする傾向がある。やり方を丁寧に伝え、練習問題を授業の中でも行っていきたい。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	50.3	55.8	53.5
	読むこと	55.0	56.0	53.8
	書くこと	56.8	45.6	40.9
観点	知識・技能	59.1	54.3	50.2
	思考・判断・表現	39.8	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は50.3ポイントで、市平均を5.5ポイント、県平均を3.2ポイント下回った。</p> <p>○思考・判断・表現の観点での設問(3問中2問)で、正答率が市・県を上回った。特に、「たずねられたことに対して、自分の考えを簡潔に書くことができるかどうか」を問う記述式の問題では、正答率が市・県ともに5ポイント以上上回った。</p> <p>●知識・技能の観点での設問では、全ての問題で市・県の平均を下回った。いずれも選択式の問題であるが、たずねられたことと、正答に繋がる語句が聞き取れていないと考えられる。</p> <p>また、上述した記述式の問題では、正答率が高い一方で、無解答率も高く、23.9%が無解答(市 22.3、県 22.9)であった。</p>	<p>・全体的に平均を下回っていることから、年間を通して様々な状況でのリスニングに取り組み、英語の音声や表現に慣れ親しませていく。</p> <p>・英文の概要や必要な情報を聞き取る力を基に、聞き取った内容に対して自分の意見を英語で表現したり、日常的話題について英語で自分の考えを表現させる活動を継続的に行う。</p> <p>・課題の見られた形式のリスニング問題では、内容を聞き取るだけでなく、「選択肢から適切な応答を選択することも求められるため、選択肢を正しく理解するための「読むこと」の視点からの指導を意識するなど、技能を統合した課題に取り組みさせていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は55.0ポイントで、市・県の平均とほぼ同程度である。市平均を1.0ポイント下回ったものの、県平均を1.2ポイント上回った。</p> <p>○知識・技能の観点で、対話文中で、1年次に学習する人称代名詞やbe動詞の過去形を適切に選択する問題では、市・県の平均正答率を10ポイント以上上回った。</p> <p>●それ以外の「読むこと」の問題では、全体的に市・県の平均を下回っている。特に、「学校生活について書かれた英文を読み、その概要を捉える問題」では、市・県の平均を10ポイント以上下回った。</p>	<p>・語形・語法・語彙の知識の定着を図り、活用できる技能を身につけさせるため、今後も、品詞と語順について継続して指導していく。</p> <p>・英文を読み、その概要を捉える力を育成するために、聞くこと同様、読み取った内容に対して自分の意見を英語で表現させたり、簡単な話題について英語で自分の考えを表現させたりするなど、領域を横断した活動の設定の工夫を図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は56.8ポイントで、市平均を11.2ポイント、県平均を15.9ポイント上回った。</p> <p>○対話が成り立つように、空欄に当てはまる語を書いたり、与えられた語の形を変えたりする問題(4問)では、全ての問題で市・県の平均を上回った。</p> <p>また、全体的に無解答率が低く、例年無解答率が高くなる「まとまりのある文章を書く問題」においても、無解答率は24.6ポイント(市 32.2、県 32.4)にとどまった。前年度までのとちぎっ子の問題を複数回解かせたことにより、1年次の学習内容の重点を意識して復習に取り組んだ生徒が多いと考えられる。</p> <p>●例年正答率が低くなる傾向にある、「疑問詞を用いた疑問文を正確に書く問題」、「否定の命令文を正確に書く問題」での正答率が低い。定期テスト等でも出題して定着に努めたが、知識の定着していない生徒が約半数いることが分かる。</p>	<p>・前年度までのとちぎっ子の問題を繰り返し解くことで、今年度は明らかに無解答率が低くなったことから、定期テスト・単元テスト等も一度ではなく繰り返し活用しながら、各単元で知識・技能の定着を図っていく。</p> <p>・英作文における無解答率は、基礎・基本的な文法の知識の定着の有無も大きな要因であるため、各学年で各単元の学習内容の一層の定着を図るとともに、既習の学習内容の復習を計画的に取り入れ、知識の確実な定着を目指す。</p> <p>・日々の授業において、英作文への取組において支援が必要な生徒を把握し、例文を書き写させるなど、理解度に応じた支援を行えるよう、授業展開・単元の指導計画の工夫を図る。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習に関して】

○質問事項(1)「家で、自分で計画を立てて勉強している。」(2)「家で、学校の宿題をしている。」(5)「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」(6)「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」(10)「学習塾で勉強をしている。」(15)「学校の宿題は、自分のためになっている。」(16)「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」(24)「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」など、県の平均を上回る肯定的回答の質問事項が多い。

○質問事項(37)「先生は学習のことについてほめてくれる。」(38)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」についても、肯定的回答の割合が県の平均を上回っており、教師と生徒の関係性も良好であることが分かる。

●一方で、質問事項(3)「家で、学校の授業の予習をしている。」(4)「家で、学校の授業の復習をしている。」については、いずれも県の平均を下回っていることから、家庭学習の内容について改善の余地があることが分かる。

●質問事項(28)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」(30)「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」については、「よく当てはまる」という回答割合が県を大きく下回っていることから、生徒が授業で何を学習するのか、したのかを振り返れるようにする教師側の工夫に課題があることが分かる。

【生活に関して】

○質問事項(43)「毎日、朝食を食べている。」(45)「早寝、早起きを心がけている。」では、肯定的回答の割合が県の平均を上回っており、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒が多いことが分かる。

○質問事項(63)「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」(64)「自分は家族の大切な一員だと思う。」について、肯定的回答の割合が県の平均を上回っていることから、家族との関係が良好な生徒が多いことが分かる。

また、上述した学習に関する質問事項(37)の肯定的回答率も高いことから、普段関わる大人との良好な関係を築けていることが、質問事項(52)「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答率の高さ、つまり自己有用感の育成に繋がっていると考えられる。

●質問事項(60)「将来の夢や目標をもっている。」(62)「家の人と将来のことについて話すことがある。」では、肯定的回答の割合が県の平均を上回っているものの、他の質問事項と比べるとやや肯定的回答の割合が低くなっていることから、宮つ子チャレンジやキャリア教育を通して、目標に向かって行動する力の育成を図りたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善を通じ、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す。	・学力向上プログラムを行うことで、基礎・基本の確実な定着を目指し、家庭学習の充実を図る。 ・各種学力調査結果の分析をもとに、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を行う。	・学習に関する質問事項について、概ね県の平均を上回っており、大多数の生徒が学習に対して意欲が見られる良好な状況である。一方で、質問番号(28)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」、(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」、(30)「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」では、いずれも肯定的回答が県の平均を下回っている。学習指導の重点的な取組にもある「宇都宮モデルに基づく授業改善」に係る項目であることから、教職員への定期的に確認する機会を設け、「めあての提示」「振り返りの実施」「ノート指導」を実践していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・質問番号(3)(4)「家で、学校の授業の予習・復習をしている。」では、肯定的回答が県の平均を下回っている。 ・質問項目(8)(9)「(平日は学校の授業以外で)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)。」では、肯定的回答が県の平均を下回っている。	・各教科の授業と家庭学習をリンクさせ、より効率的な家庭学習の充実を図り、基礎・基本の定着を目指す。	・現在の学習に対する前向きな姿勢を生かし、各教科で「めあての提示」「振り返りの実施」「家庭学習への助言」を授業時間内に徹底する。 ・授業への取組は良好であることから、家庭学習の充実が基礎・基本の定着に非常に効果的であることを繰り返し伝えるとともに、各教科での予習復習につながる宿題の工夫を図る。